

# 季節風

2017. 2. 14  
NO.17  
山鹿市立鹿北中学校  
文責：郡 一路

## 「小さな親切」運動実践発表会

鹿北町が取り組んでいる「小さな親切」運動。中学生も実践しています。四日(土)の実践発表大会では、二年生の島北君と石川君が、身近な出来事から感じたことを発表してくれました。

島北君は、スクールバスの運転手さんが語りかけてくれる言葉やあいさつが、心になごませてくれることに気づき、自分も「あいさつ」を心を入れていきたいと発表してくれました。

石川君は、おじいちゃんとの関わりを通して、自分を見つめ直し、人との関わりの大切さ、命の大切さ、悔いのない生き方を学んだことを発表してくれました。

二人の発表は、会場全体を温かく包んでくれました。



また、発表会の中で、「かほくまつり」での鹿北中学生徒ボランティア活動に対して、「小さな親切」実行章をいただきました。

「小さな優しさの連鎖は地域のつながりをより深め、人の心を豊かにしてくれる」との言葉に、鹿北町が三十七年間取り組んできたことの「大きな成果」を感じました。

## =ある高校の校長先生=

13日(火)は、公立高校前期選抜の結果通知の日でした。この日は3年生はもちろん、職員室も少しそわそわした雰囲気がありました。

一日があわただしく過ぎていく中で、昼過ぎの時間、ある高校の校長先生が来校されました。

「何だろう」と思って校長室にご案内しました。すると、校長先生自ら前期選抜の結果についてお話にいられたということでした。(実は、結果についてはその高校の先生が午前中に持参してくださっていたのですが。)

校長先生のお話をうかがっていると、前期選抜を受検した中学生一人一人のことをとても大切にされていることが言葉や表情から伝わってきました。

「一人の生徒を徹底して大切にする。」私たち教育に携わる者として当たり前のことですが、この校長先生から、私はあらためて自分自身を見つめ直す機会をいただきました。

## 「あいさつ」の広がり、「共感」の大切さ

二月上旬寒い日が続く中、部活動のキャプテンの人たちが、朝から清流門で「あいさつ運動」をしてくれました。何とか自分たちで、もっと「あいさつ」ができる学校にしようとの思いからの取組です。

そして、そのキャプテンの思いを感じて、生徒会三役、専門委員会の正副委員長も「あいさつ運動」に自主的に参加してくれました。たくさんの方が「あいさつ運動」を行ってくれました。鹿北中の生徒の「あいさつ」は決して悪くはありません。むしろ、しっかりとできていると思いま

す。ただ今回は、現状に満足することなく、「自分たちの『あいさつ』で地域の方々に元気になる」、そんな「あいさつ」を目指しての取組でした。

「思いに添えて」、たくさんの方が「あいさつ運動」に参加してくれました。そのことがとてもうれしかったです。

「共感」という言葉が頭に浮かびました。人と人との関係の中で生まれるこの「共感」は、感性を磨き、心を豊かにしてくれるものなんだと感じました。寒い日が続きますが、心が温かくなる場面をつくってくださり、みなさんに感謝です。

## 二年生保育園実習

「学び」も大切だと思いましたが、小さな子どもたちとの関わりの中で感じたことを、大切にしたいと思います。



八日(水)、家庭科の授業で二年生が岩野保育園に行きました。子どもたちと遊んだり活動する中学生は、みんな笑顔で優しい表情をしていました。時には、学校を離れての